

令和元年度協働事業提案制度事業報告会 結果報告

1 日時

令和元年6月30日(日) 午前9時30分～午後1時50分
(その後、3時20分まで審査作業部会意見取りまとめ)

2 会場

ウェルネスさがみはら7階 視聴覚室

3 報告会対象者

平成30年度協働事業提案制度実施事業のうち、30年度をもって終了した事業(3事業)及び令和元年度が最終年度となる事業(5事業)の実施団体及び事業担当課【合計8事業】

4 参加者

団体14名、事業担当課14名、一般11名・・・合計39名

5 審査員の評価

各事業の成果に対し、4項目4段階で評価を行った。

評価項目 事業の有効性、協働の有効性・効果、役割分担の適切性、経費の適切性
評価区分 a:高く評価できる b:評価できる c:あまり評価できない d:評価できない
評価点は、a=4点、b=3点、c=2点、d=1点と置き換え点数化し、
80点満点(審査員5名×4項目×4点)を100点満点に換算。

	事業名	評価点 (100点満点に換算)	主な審査会意見
1	共助による旧耐震基準の住宅所有者等に対する耐震化支援事業	85	この事業を通じて、耐震化支援の制度を多くの市民に周知でき、認知度が高まったことを評価できる。 耐震性に課題がある住宅はまだ多くあるため、団体の構成員である事業者のビジネスに結び付けるシステムにし、今後も団体の自立的な活動として相談対応を継続していただきたい。
2	津久井葎尾根の里山を活用した若年無業者等と都市住民との交流事業	91	着実に事業を進め、安定して成果を残していることを評価することができる。 団体の自立した活動とするため、販売型クラウドファンディングを活用するなど自主財源を得る方法を模索するとともに、他の補助金等も視野に入れた検討を行い、これまでの経験を生かしながら更に活動を発展させていただきたい。

3	津久井産材製キエーロ(木製の生ごみ処理器)の開発・普及モデル事業	76	<p>今年度の取組として、いくらで売るといくら収益が出るのかといったビジネスモデルとしての仮説を立てながら事業を実施していただきたい。</p> <p>企業の新規開発担当者を参画させるなど、キエーロが津久井産材の普及として有効な事業となるか検証し、次年度の報告会で報告をしていただきたい。</p>
4	森林活用モデル検討事業	91	<p>企業へのヒアリングやアンケートなど、しっかりとした調査を行っており評価できる。今回の事業で得た成果を生かし、良い市民の森を作っていただきたい。</p> <p>団体の運営面での支援を受けるために神奈川県のプロボノ制度やさがみはら市民活動サポートセンターの「たすかるバンク」などの活用を検討していただきたい。</p>
5	落書き防止活動事業	91	<p>事業の実施により、放置されている落書きの消去やその後のきれいな状態を保つことが出来たこと、NPO法人と塗装協同組合、行政という三者で協力関係を築いたことを評価することができる。</p> <p>次の展開として、塗装協同組合が中心となり、アーティストに壁を貸し、収益を得ながら落書き防止の壁面絵画を設置するような仕組みができるか検討していただきたい。</p>
6	自動車ドライバーを含む自転車利用者向け交通安全講習会事業	90	<p>アンケートの結果など、分かりやすい成果が出ており評価できる。</p> <p>交通事故の減少に向けた取組として初期の目標は達成できたため、事業を通じて得たノウハウを生かし、相模原モデルと呼べるような自転車事故対策の有効な手段として、更なる普及啓発に努めていただきたい。</p>
7	WEBを活用した野菜販売促進プロジェクト事業	89	<p>審査員意見を踏まえた事業計画を立て、地域を巻き込みながら着実に目的に向かっており評価できる。</p> <p>今後も人と人との繋がりを大切にし、身の丈にあった活動を継続しながら、団体として次のステップに進んでいただきたい。</p>
8	「木もれびの森」案内看板及びマップ製作事業	86	<p>2年間という当初の計画どおりに着実に事業を進め、成果を出しており評価できる。</p> <p>今回の事業で作成した案内看板やパンフレットを森の楽しみ方とあわせてリアルタイムで発信し、利用者がアクセスしやすい取組となることを期待したい。</p>

5 来場者アンケートの結果（回答数17） 記入のあった項目のみ下記に記載

Q1 公開事業報告会を知ったきっかけ（複数回答可）

広報さがみはらを見て ... 2 ポスター・チラシを見て ... 2
ホームページ等の電子媒体を見て ... 2 提案団体からの案内 ... 5
市民フォーラムさがみはらメンバーからの案内 ... 2
市職員からの案内 ... 5 その他 ... 1

Q2 参加区分

団体関係者 ... 6 市民フォーラムさがみはら関係者 ... 1
市職員 ... 5 一般 ... 4 その他 ... 1

Q3 傍聴したプログラム

平均すると5.4件傍聴している。

Q4 参考になったか

大変参考になった ... 13 まあまあ参考になった ... 3
参考にならなかった ... 1

Q5 関心を持った事業やテーマがあったか（複数回答可）

なかった ... 1
あった ...
・共助による旧耐震基準の住宅所有者等に対する耐震化支援事業 4
・津久井葦尾根の里山を活用した若年無業者等と都市住民との交流事業 4
・津久井産材製キエーロ（木製の生ごみ処理器）の開発・普及モデル事業 6
・森林活用モデル検討事業 3
・落書き防止活動事業 7
・自動車ドライバーを含む自転車利用者向け交通安全講習会事業 7
・WEBを活用した野菜販売促進プロジェクト事業 7
・「木もれびの森」案内看板及びマップ製作事業 6

Q7 今後、協働事業提案をしてみたいと思うか

すでに具体的な提案を検討している ... 2 提案してみたいと思う ... 6
話ぐらいいは聞いてみたい ... 3 そこまでの関心はない ... 2
その他 ... 3

Q8 市民協働についての関心は高まったか

高まった ... 10 変わらない ... 3

自由意見（主なものを抜粋）

【協働について】

「協働」は補助、助成とは異なり、市民に広く成果や効果を還元することや意識変革につなげることが重要だと思う。今後も制度がより良く発展することを期待している。

市民と行政が協働で行う事業は様々あり、多様な形で関わりを持てるということを再認識した。今後、行政と市民と事業者それぞれの良さを生かし、まちの発展に寄与できるような協働事業に携わりたい。

相模原で暮らす様々な人々の視点から協働することで、市民だけではできないこと、市だけでは得られない効果があると思った。市民フォーラムの存在や審査員からの助言等、様々な人々の想いが、より高い効果を上げていると思う。

【成果・評価について】

協働事業終了後、それぞれの事業はどうなっているのか？多くの事業が数百万の費用をかけて、その後、地域や社会に根付くようになったのか、また、課題解決に繋がっているのかを知りたい。

期間を定めた事業に対して助成する方が、成果を評価しやすい。

【事業について】

継続していくためには自主財源の確保の必要性を感じる。活動者と自治体の役割分担を考えるべきであり、協働という考え方にも「事業化」ということを含めて考えていくべきだと思う。特に若い方々が協働という取組に積極的に参加していくためには、事業性は欠かせないと思う。

1～3年で終わる（もしくは団体ですぐに自力で運営できる）小規模の事業を対象とすることで、市負担金ありきの事業継続リスクが減るのではないかと考える。

【その他】

協働事業提案制度という制度の意義を考えると、以前は行政コストの削減といった観点に着目していたが、報告会を聞いて、「相模原をもっとよくしたい」という強い思いを感じ、その思いを持った市民と行政が互いの強みを生かしながら成果を示されたことに感銘を受けた。

報告された方々は複数年やっている方が多く、他で聞く団体の発表より洗練された発表内容だった。

協働事業のコラボレーションロゴのようなものができると良いのではないかと。

以 上